安全データシート

ダウ・ケミカル日本株式会社

化学品の名称: SYLGARD™ 184 Silicone Elastomer Base

発行日: 2021/11/22
印刷日: 2021/11/23

ダウ・ケミカル日本株式会社 は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)ＳＤＳを熟読され、ご理解されるようお願いしております。使用条件によって他の対応を必要とする場合以外は、記載注意事項を遵守されるようお願い致します。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: SYLGARD™ 184 Silicone Elastomer Base

推奨用途及び使用上の制限
特定用途: 腐食防止剤 電気および電子産業

供給者の会社名称、住所、及び電話番号
ダウ・ケミカル日本株式会社
140-8617
東京都品川区東品川 2 丁目 2 番 24 号
天王洲セントラルタワー

会社電話番号: 03-5460-2100
SDSQuestion@dow.com

緊急連絡電話番号
24 時間対応緊急連絡先: 0120-00-1017
緊急連絡電話番号: 0120-00-1017

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類
本製品は、化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（ＧＨＳ）に基づく危険有害性ではない。

他の有害危険性
データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲

キシレン	1330-20-7	3-3, 3-60	(3)-3, (3)-60	>= 0.25 - < 1.0 %
エチルベンゼン	100-41-4	(3)-28	(3)-28	>= 0.1 - < 0.25 %

4. 応急措置

必要な応急措置
一般的アドバイス:
ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

吸入した場合: 新鮮な空気の場所に移動させ、呼吸を快適に保つ。医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合: 多量の水で洗い流す。

眼に入った場合: 数分間眼を徹底的に水で洗い流す。1～2 分洗眼してからコンタクトレンズをはずし、さらに数分洗い続ける。症状があれば、医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。

飲み込んだ場合: 口を水ですすぐ。 緊急医療措置は必要ない。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:
上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示
医師に対する特別な注意事項: 特別な解毒剤はない。 ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤: 耐アルコール泡消火剤. 二酸化炭素（CO2）. 粉末消火剤. 水噴霧.

使ってはならない消火剤: 知見なし。.

特有の危険有害性

有害燃焼副産物: ケイ素酸化物. 炭素酸化物.

異常な火災および爆発の危険: 燃焼生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。.

消防士へのアドバイス

消火手順: 未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。. 区域から退避させること。. 火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。.
現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。 安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。

消火を行う者の保護: 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。. 保護具を使用する。.

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 安全な取り扱いの助言や、個人保護具の推奨事項に従う。

環境に対する注意事項: 環境への放出は必ず避けなければならない。 安全を確認してから、もれやこぼれを止める。 広範囲に広まるのを防ぐ（封じ込めまたはオイルバリアなどによる）。 汚染された洗浄水を保管し、処分する。 流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 不活性な吸収材で吸収させる。 適切な吸収剤を使用して、漏洩物を除去すること。 本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体および国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。 多量にこぼれた場合、防液堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防液堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。
以下の項目を参照のこと：7、8、11、12 および 13

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。 十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。 空容器は危険有害性。空容器の内部には残留物質が存在するので、容器が空になった後も、(M)SDS および警告表示をすべて遵守すること。
適切な換気装置の下でのみ使用する。 ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

保管: 適切なラベルのついた容器に入れておく。 各国の規定に従って保管する。

次の製品種類といっしょに保管しない： 強酸化剤.
容器に不適な素材: 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度
ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	価値
キシレン	ACGIH	TWA	100 ppm
	詳細情報: A4: ヒト発がん性物質としては未分類		
	ACGIH	STEL	150 ppm

	詳細情報: A4: ヒト発がん性物質としては未分類		
	安衛法（管理濃度）	ACL	50 ppm
	日本産業衛生学会（許容濃度）	OEL-M	217 mg/m3 50 ppm
	詳細情報: 2: 第 2 群： ヒトに対しておそらく生殖毒性を示すと判断　される物質		
エチルベンゼン	ACGIH	TWA	20 ppm
	詳細情報: A3: ヒト関連性は不明な動物発がん性物質		
	安衛法（管理濃度）	ACL	20 ppm
	日本産業衛生学会（許容濃度）	OEL-M	87 mg/m3 20 ppm
	詳細情報: 2: 第 2 群： ヒトに対しておそらく生殖毒性を示すと判断　される物質; S: 経皮吸収; 2B: 発がん物質，「第 2 群 B」に分類される物質は，証拠が比較的十分でない物質，すなわち，疫学研究からの証拠が限定的であり，動物実験からの証拠が十分でない．または，疫学研究からの証拠はないが，動物実験からの証拠が十分である．		

生物学的職業暴露限度

成分	CAS 番号	対象物質	生物学的試料	試料採取時期	許容濃度	出典
キシレン	1330-20-7	総メチル馬尿酸（o-, m-, p-三異性体の総和）	尿	週の後半の作業終了時	800 mg/l	日本産業衛生学会
		メチル馬尿酸	尿	シフト終了時（暴露停止後できるだけ早く）	1.5 g/g クレアチニン	ACGIH BEI
エチルベンゼン	100-41-4	マンデル酸及びフェニルグリオキシル酸の合計	尿	シフト終了時（暴露停止後できるだけ早く）	0.15 g/g クレアチニン	ACGIH BEI

ばく露防止

設備対策: 局所排気装置や他の排気装置を使用して、気中濃度が許容濃度や管理濃度より低くなるように管理する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、通常の作業は全体換気を行うことで十分である。 一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度や管理濃度を超える可能性がある場合、呼吸器保護具を着用すること。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、呼吸器刺激や不快感等がある場合、又はリスク評価において必要であると示された時、呼吸器保護具を着用する。 たいていの場合、呼吸用保護具は必要ない。ただし、不快感がある場合は、認可された空気清浄呼吸器を使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である： 有機ガス用

手の保護具: この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。 望ましい手袋の素材の例：ブチルゴム。 ネオプレン。 ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたはNBR)。 エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。 ポリ塩化ビニル(PVCまたはビニル)。 天然ゴム(ラテックス)。 注意：特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある：取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件（切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護）、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。
眼の保護具: 安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。
皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色
臭い	かすか
臭いの閾値	データなし
pH	データなし
融点／凝固点	
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	
沸点 (760 mmHg)	> 100 ° C
引火点	**ペンスキーマルテンス密閉式引火点試験** 121.1 ° C **クリーブランド開放式引火点試験** >250 ° C
蒸発速度(ﾌﾞﾁﾙｱｾﾃｰﾄ=1)	データなし
可燃性	
可燃性（固体、気体）	非該当
可燃性（液体）	非該当
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	データなし
相対ガス密度	
相対蒸気密度（空気＝1）	データなし
密度及び／又は相対密度	
比重・相対密度(水=1)	1.11
溶解度	
水への溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数（log値）	データなし

自然発火点	データなし
分解温度	データなし
動粘性率	5000 cSt @ 25 ° C
爆発特性	非爆発性
酸化特性	本製品は酸化性物質としては分類されない。
液体密度	1.11 g/cm3
分子量	データなし
粒子特性	
粒子サイズ	非該当

注記： 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: 反応性危険としては分類されない。

化学的安定性: 通常の状態では安定。

危険有害反応可能性: 強い酸化剤と反応することがある。

避けるべき条件: 知見なし。

混触危険物質: 酸化剤との接触は避ける。

危険有害な分解生成物:
分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない： ホルムアルデヒド.

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

可能性のある暴露経路の情報
吸入, 眼に入った場合, 皮膚接触, 飲み込んだ場合.

急性毒性（即時影響を及ぼす短期間ばく露を示す。特に断りのない限り慢性／遅延影響は見られない。）

急性毒性（経口）

製品情報：

誤飲した場合でも、毒性は非常に低い。 少量を誤飲しても有害な影響があるとは予見されない。

製品として。 単回経口投与の LD50 のデータなし。

成分の情報による：
LD50, ラット, > 5,000 mg/kg 推定値。

成分情報：

キシレン
LD50, ラット, 4,300 mg/kg

エチルベンゼン
LD50, ラット, 3,500 mg/kg

急性毒性（経皮）

製品情報：

長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。 長期にわたり極めて大量に皮膚に接触すると、めまいや眠気を起こすことがある。

製品として。 経皮 LD50 は決定されていない。

成分の情報による：
LD50, ウサギ, > 2,000 mg/kg 推定値。

成分情報：

キシレン
LD50, ウサギ, > 2,000 mg/kg

エチルベンゼン
LD50, ウサギ, 15,500 mg/kg

急性毒性（吸入）

製品情報：

蒸気への単回暴露による有害作用はないと考えられる。

LC50 は決められていない。

成分情報：

キシレン
症状には、頭痛、めまいと眠気のほか、協調運動障害および意識消失の進行などがある。 LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 27.5 mg/l

エチルベンゼン
LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 17.2 mg/l

皮膚腐食性／刺激性

製品情報:

成分の情報による:
短時間接触で、局部発赤を伴う軽い皮膚刺激を起こすかもしれない。

成分情報:

キシレン
長期間接触すると、局所発赤を伴う皮膚刺激作用を起こすことがある。
繰り返し接触すると皮膚熱傷を負うことがある。症状には、痛み、重度の局所発赤、腫れおよび組織損傷などがある。
蒸気は皮膚を刺激することがある。
皮膚の乾燥および剥離を引き起こすことがある。

エチルベンゼン
短時間接触で、局部発赤を伴う中程度の皮膚刺激を起こすかもしれない。
長時間接触すると、皮膚に熱傷を起こすことがある。症状には、痛み、重度の局所発赤、腫脹および組織損傷がある。
皮膚の乾燥および剥離を引き起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

製品情報:

成分の情報による:
軽度に眼を刺激することがある。

成分情報:

キシレン
中等度に眼を刺激することがある。
軽度の一過性角膜損傷を起こすことがある。
蒸気は軽度の不快感や充血を伴い眼を刺激することがある。

エチルベンゼン
中等度に眼を刺激することがある。
蒸気は流涙症を起こすことがある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品情報:

皮膚感作性:
モルモットでアレルギー皮膚感作を引き起こさなかった成分を含有する。

呼吸器感作性:
関連のあるデータは得られていない。

成分情報:

キシレン
皮膚感作性：
関連のあるデータは得られていない。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

エチルベンゼン
ヒトでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

製品情報：

使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

成分情報：

キシレン
呼吸器への刺激のおそれ。
ばく露経路: 吸入
標的臓器: 呼吸器系

エチルベンゼン
使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

誤えん有害性

製品情報：

物性上、吸引性呼吸器有害性は低い。

成分情報：

キシレン
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

エチルベンゼン
経口摂取や嘔吐の際、肺への吸引の恐れがあり、肺損傷を起したり、化学性肺炎のため死に至ることもある。 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

慢性毒性（反復投与による慢性／遅延影響を及ぼす長期間ばく露を示す。特に断りのない限り即時影響は見られない。）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

製品情報：

動物で下記の臓器に影響があると報告されている成分を含有する：
肝臓。

成分情報：

キシレン
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
肝臓
腎臓
血液
高濃度のキシレンへの暴露により、実験動物に聴力損失が生じることが報告されている。ヒトに対してはその様な影響の報告はない。

エチルベンゼン
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
動物データによれば、聴力損失をおこすことがある。
腎臓。
肝臓。
肺。
以前の１つのエチルベンゼンの吸入試験では精巣に有害影響があると報告されたが、最近のより包括的な試験ではそのような影響は示さなかった。

発がん性

製品情報：

動物試験で発がん性のなかった成分を含有。

成分情報：

キシレン
キシレンは、米国ＮＴＰバイオアッセイにより、ラットやマウスにおいて発がん性があるとは認められなかった。

エチルベンゼン
エチルベンゼンは、実験動物で発がん性を示した。 これらの発見がヒトに関係していることを示す証拠は存在しない。

催奇形性

製品情報：

動物試験で催奇形性がなかった成分を含有。

成分情報：

キシレン
妊娠中のマウスに過量のキシレンを経口投与すると、マウスによくみられる発生異常である口蓋裂の発現率が高くなる。動物を用いた吸入試験では、キシレンによる胎児毒性は認めら

れたが、催奇形性は認められなかった。 入手可能データは、母体の毒性を評価するのには不十分である。

エチルベンゼン
実験動物において、母体毒性を示す用量でのみ催奇形性が認められた。 実験動物において、母体毒性を示さない用量で胎児毒性が認められた。

生殖毒性

製品情報:

動物試験で、生殖毒性がなかった成分を含有している。

成分情報:

キシレン
動物試験では、生殖を阻害しなかった。

エチルベンゼン
動物試験では、生殖を阻害しなかった。 動物試験では、繁殖性を阻害しなかった。

生殖細胞変異原性

製品情報:

動物遺伝毒性試験で陰性だった成分を含有。 インビトロ遺伝毒性試験で陰性だった成分を含有。

成分情報:

キシレン
インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。 動物遺伝毒性試験は陰性だった。

エチルベンゼン
インビトロでの遺伝毒性試験は陰性であった。 動物遺伝毒性試験は陰性だった。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性

キシレン

魚類に対する急性毒性
物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種ではLC50/EC50 1～10 mg/L)。
LC50,Oncorhynchus mykiss (ニジマス),半止水式試験,96 h,2.6 mg/l,OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

無脊椎動物に対する急性毒性
IC50,Daphnia magna (オオミジンコ),24 h,1 - 4.7 mg/l,OECD テストガイドライン 202 あるいは同等のもの

藻類/水生植物に対する急性毒性
ErC50,Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻) ,静的,73 h,成長速度,4.36 mg/l,OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの
最大無影響濃度,Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻),73 h,成長速度,0.44 mg/l,OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの

魚類に対する慢性毒性
最大無影響濃度,Oncorhynchus mykiss (ニジマス),流水式,56 d,死亡率,> 1.3 mg/l

エチルベンゼン

魚類に対する急性毒性
物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC50/EC50 1～10 mg/L)。
LC50,Oncorhynchus mykiss (ニジマス),半止水式試験,96 h,4.2 mg/l,OECD テストガイドライン 203 あるいは同等のもの

無脊椎動物に対する急性毒性
EC50,Daphnia magna (オオミジンコ),静的,48 h,1.8 - 2.4 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性
EC50,Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻),72 h,成長阻害,3.6 - 4.6 mg/l,OECD テストガイドライン 201 あるいは同等のもの

細菌に対する毒性
EC50,バクテリア,16 h,> 12 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性
最大無影響濃度,Ceriodaphnia dubia (ミジンコ),半止水式試験,7 d,0.96 mg/l

土壌生息生物類に対する毒性
LC50,Eisenia fetida (ミミズ),2 d,生存,0.047 mg/cm2

残留性・分解性

キシレン

生分解性: 物質は易分解性であると考えられる。
10-day Window:合格
生分解: > 60 %
曝露時間: 10 d
方法: OECD テストガイドライン 301F あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 3.17 mg/mg

生物学的酸素要求量(BOD)

培養時間	BOD
5 d	37.000 %
10 d	58.000 %
20 d	72.000 %

光分解性
試験タイプ: 半減期 (間接光分解)
感作性物質: OH ラジカル
大気中半減期: 19.7 h
方法: 推定値。

エチルベンゼン

生分解性: 物質は易分解性である。OECD 易分解性試験に合格している。
10-day Window:合格
生分解: 100 %
曝露時間: 6 d
方法: OECD テストガイドライン 301E あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 3.17 mg/mg 推定値。

化学的酸素要求量: 2.62 mg/mg 重クロム酸塩

生物学的酸素要求量(BOD)

培養時間	BOD
5 d	31.5 %
10 d	38.5 %
20 d	45.4 %

光分解性
感作性物質: OH ラジカル
大気中半減期: 55 h
方法: 推定値。

生体蓄積性

キシレン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。 (BCF < 100 または Log Pow < 3)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.12 測定値
生物濃縮因子 (BCF): 25.9 ニジマス (Salmo gairdneri) 測定値

エチルベンゼン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。 (BCF < 100 または Log Pow < 3)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.15 測定値
生物濃縮因子 (BCF): 15 魚類 測定値

土壌中の移動性

キシレン

分配係数 (Koc): 443 推定値。

エチルベンゼン

分配係数 (Koc): 518 推定値。

オゾン層への有害性

キシレン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

エチルベンゼン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

キシレン

当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。 この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

エチルベンゼン

当物質は、残留性、生物濃縮性、毒性(PBT)であるとは考えられていない。 この物質は、極難分解性・極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄方法: 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条令に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装: 廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID):

Not regulated for transport

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG):

Not regulated for transport

MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC また Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

は IGC コードに従い積荷を
運搬する。

航空輸送に関する分類（IATA/ICAO）:
Not regulated for transport

国内規制がある場合の規制情報
陸上輸送は、消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法令に定められた運送方法に従う。海上輸送は、船舶安全法に従う。航空輸送は、航空法に従う。

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

化審法
特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)
製品の意図的使用成分には、制限の対象となる物質がある。製造及び/又はその使用は、制限の条件によって限定される。

労働安全衛生法
名称等を通知すべき危険物及び有害物
法第 57 条の 2（施行令別表第 9）

化学名	濃度又は濃度範囲
キシレン	>= 0.1 - < 1.0 %
エチルベンゼン	>= 0.1 - < 1.0 %

名称等を表示すべき危険物及び有害物
法第 57 条（施行令第 18 条）

化学名	濃度又は濃度範囲
キシレン	>= 0.1 - < 1.0 %
エチルベンゼン	>= 0.1 - < 1.0 %

特定化学物質障害予防規則
非該当

有機溶剤中毒予防規則
非該当

健康障害防止指針公表物質
非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）
非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）
非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）
非該当

消防法
指定可燃物,可燃性液体類,(指定数量 2 立方メートル),火気厳禁
シリコーン混和物

毒物及び劇物取締法
非該当

化学物質排出把握管理促進法
非該当

高圧ガス保安法
非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律
産業廃棄物

16. その他の情報

改訂
ID 番号: 99109937 / A151 / 発行日: 2021/11/22 / 版番号: 7.0

凡例

ACGIH	米国。 ACGIH 限界閾値（TLV）
ACGIH BEI	ACGIH - 生物学的暴露指標（ BEI ）
ACL	管理濃度、基準濃度
OEL-M	許容濃度
STEL	短時間暴露限界
TWA	8 時間、時間加重平均
安衛法（管理濃度）	作業環境評価基準、健康障害防止指針
日本産業衛生学会	許容濃度等の勧告 - II.生物学的許容値

日本産業衛生学会（許容濃度）	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I.化学物質の許容濃度

その他の略語の全文

AICS - オーストラリア化学物質インベントリー; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; CPR - 管理製品規則; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト（カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存および新規化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 化学品の分類および表示に関する世界調和システム; GLP - 優良試験所規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法（日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度（半数致死量）; LD50 - 50%致死量（半数致死量）; MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n.o.s. - 他に規定のない限り; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質）; PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - （定量的）構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認 可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 米国; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

ダウ・ケミカル日本株式会社 は、お客様や(M)SDS の受領者の皆様が、この(M)SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。 法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。 各製造会社固有の(M)SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDS に関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDS をお持ちの場合や、お手元の(M)SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。
JP